

マリアニスト家族世界評議会 2017 年クリスマス・メッセージ

闇の中を歩む民は、大いなる光を見た。(イザヤ書 9・2)

神よ！あの光は一体どこにありますか。私たちは一生懸命探し求めてきましたが、しかしこの一年間、多くの日々は非常に暗く感じられました。私たちはハリケーン、火事、また洪水で苦しみました。人間は恐れから、憎しみから、あるいは理解できない理由のために、テロ行為によって他の人間を殺してしまいました。あまりにもしばしば、真実は、わがままな人、または権力を欲張る人によって“犠牲”となりました。私たちの争いは、子供の喧嘩（“棒切れや石”）の程度を超えて、銃、爆弾、そして核兵器による壊滅状態の脅威にさえ至ってしまいました。自分たちのことばさえ武器となったことがあります：政治問題について敵味方を決め、近所の人たち、同僚、家族のメンバーでさえ敵に回すことなど。

そうです。神よ、今の時代は非常に暗く、希望がないと感じられます。神よ、一体、あなたはどこにいらっしゃるのですか？あの光はどこにあるのですか？

どんなに問題が多く、力がないと感じても、私たちは（聖書にある）あの“良き知らせ”を求めています。

- キリスト教の伝統が思い出させてくれることは、イエスは、力に満ちた王としてではなく、マリアの“はい”とマリアの継続的育みに依存した赤ん坊としてこの世に來臨したということです。
- 私たちのカトリック指導者たちが思い出させてくれることは、“平和を望むなら、正義のために働きなさい”（教皇パウロ 6 世），“あらゆるものはつながっているのですから……”（教皇フランシスコ、ラウダート・シ、# 117）ということです。
- 私たちのマリアニストの遺産からくる知恵は次のことを思い出させてくれます：
 - ✧ **信徒の召命と修道者の召命**を一つの相互依存的な家族に結びつけるあの素晴らしい能力。これは、私たちは皆お互いに、また、自然界とどのようにつながっているかを理解するようにという教皇フランシスコの呼びかけにも共通していること。
 - ✧ **時と場所を越えて励ましとなることばをかけること**。今は私たちの“手紙”は電子的なものかもしれませんが、その内容は昔と変わりません。つまり、人々を前向きに結びつけることばです。多分、私たちはソーシャルメディアにおいても、顔と顔を合わせた対話においても、コミュニケーションの仕方について注意を払う必要があります。それは、私たちのことばが、真実のことば、愛に満ちたことば、尊敬の念を示すことばとなるためです。社会のことばの争いのさなかにおいて、マリアニストは礼儀正しい対話の模範になることができますと思います。

- ✧ **社会の周辺にある人々に対するケアの重要性**。移民、飢えている人たち、進む道に迷っている人たち、私たちとは立場を異にする人たち……

あの“良き知らせ”とは、「イエスが私たちの中に生きている」ということです。私たちはこの世界にあって良い方向への変革をもたらすように召されている人たちです。時として私たちが行動をとる必要性を感じるのは、つまり、力なき者たちにとってイエスの顔となる必要性を感じるのは、この暗闇の故なのです。私たちマリアニストは、他の善意の人たちと共に、平和、正義、環境に優しい生活を推進するために働く者なのです。

すでに多くのところで、人々が立ち上がり、「それは私たち次第だ」と言っているのを目にします。私一人ではなく、私たちが一緒になってということです。新しい方法を求めている今の時代において、私たちマリアニストは提供できる経験や能力を有しています。私たちのカリスマは、一緒に協力して働くよう私たちを招いています。

アデルが 1807 年の手紙に書いたように、“東方の博士たちにならって、同じ道を通ってまぐさおけから帰らないようにしましょう。つまり、全く新しい生活、変化した生活、神さまにおいて変容した生活をしましょう。” (63.3)

暗い日々が続く中で、私たちはキリストの光となるよう召されています。

何故なら、キリストが私たちの中に生きておられるからです。

メリークリスマス！

